

若ツナサミット実施報告

2021年12月18日（土）の夜、19:00-21:00にオンラインで第1回若ツナサミットを開催しました。

「若者×ツナグバ」は、若者が、今の社会に希望を持ち、自立していくことを支援する事業です。若者一人ひとりが、社会情勢を正しく認識したうえで、多様な考え方から自分が納得のできる生き方を見つけ、その潜在能力を高め、選択肢を増やし、希望につなげていくことを目的としています。

この「若ツナサミット」は、その目的のために、若者×ツナグバに参加した4団体の成果報告会を兼ねて、参加する若者が意見交換する場です。

参加者は、今年度支援団体21名（韃衆6名、わん6名、グローカル・アバンセ5名、youthつなぐば4名）と一般参加の若者6名、それに、第1陣メンバー、次年度アドバイザーを含む招待客のベテラン8名に主催財団員の計36名でした。

19:00に開会し、まず、最初にアイスブレイクを兼ねて参加者全員を紹介しました。

続いて、

第一部、4団体による活動成果報告です（発表10分、質疑応答2分）

- ① わん！～WAN～ 下関市 社会人
“よさこいを通じて地域宣伝活動・若者コミュニティ創出・祭りの文化継承”
- ② グローカル・アバンセ 宇部市 大学生
“コロナに負けるな！オンライン／オフライン国際交流”
- ③ youth つなぐば 三次市 高校生
“youth コミュニティ”
- ④ 韃衆（ふいごしゅう） 山県郡安芸太田町 社会人
“空き家をハブとした多世代交流&先人の知恵を学ぶ！～大島の家づくり～”

各団体が自分たちの今年度の活動を振り返り、しっかりした素晴らしい発表でした。また、どの発表に対しても活発な質疑応答がなされました。

ここで休憩

第二部 意見交換会。テーマは、[「地域活性化のために活かせる若者の力とは？」](#)です。

まず、4団体から選出されたパネリストに、自分の考える「地域活性化のために活かせる若者の力とは？」を2分程度で発表していただきました。

最初は韃衆の高橋さん。地域活性化について、現状が閉鎖的なので、それを打破する解決策が活性化と定義。若者には、期待される力、それは将来があるということ。また、楽しむ力がある。地域とのしがらみがないのも強み。継続していくことが大切。

次にわんの樋口さん。若者にはコミュニティ力がある。ITC やネットワーク、SNS を使いこなす力がある。繋がりを作る、切らさない、想いを繋ぐ。

3人目は、グローバル・アバンセの埴生さん。若者には新しいことをする力がある。吸収力があり活動的。周りを巻き込む力がある。仲介役もできる。

最後は、youth つなぐばの俵君。若者にはエネルギーがある。体力があるので、過疎化が進んでいる地方の農作業の手伝いもできる。エネルギーは体力だけでなく、新たなことを考え発信する力もある。

これらの話を受けて、ブレイクアウトルームに分かれて30分間のグループディスカッションを行いました。グループは、各団体のメンバーが一人は含まれるようにし、代表をリーダー、副代表をサブリーダーとして配置しました。また、男女、県が偏らないように調整し、ベテランの招待客も一人は含まれるようにしました。

リーダーが全体の進行を行い、サブリーダーが書記と全体での発表を行いました。

グループディスカッション終了後、全体に戻って、各グループで出された意見を発表してもらいました。

地域を大好きになること。常識に対して疑問を持つ感性。熱中する時間がある。発想力、行動力。発信力、実行力、エネルギー。組み合わせる力（地域の大人にはお金と経験がある。若者にはエネルギーがある）。マッチングする力（地域と人のマッチング、海外とのマッチング）、等、色々な意見が出されました。

最後に若ツナ生みの親の同志社大学 轡田先生から一言いただきました。

地方の若者は皆さんのような力のある人だけではなく、自分から動けない人も多くいる。三次市と府中町で調査した内容を著した『地方暮らしの幸福と若者』には色々な人が登場する。このような人たちも引っ張って行ってほしい。

集合写真を撮影して終了としました。

<主催者感想>

- ・初めての試みではありましたが、若者たちが十分に意見交換を行い繋がることができたのではないのでしょうか。

- ・コロナ禍で活動が計画通りにいかず、悩みながらもできることを探し行ってきた。その内容をしっかり発表してくれたと思います。
- ・発表とパネリストは各団体の代表・副代表以外が主に担当されたが、皆とてもしっかりといて感心しました。
- ・ブレイクアウトルームに分かれての議論は大変活発に行われ、どのグループも時間が足りなかったようです。
- ・ベテランの招待客のご意見も、若者には新鮮で大変参考になったようです。
- ・この若ツナサミットは、成果発表と意見交換という目的以外に、参加団体以外の若者との繋がりを期待していましたので、一般参加の若者が少なかったという点では少し物足りなさがありました。どうすれば、初めての若者を引っ張ってこれるかは今後の課題です。

文責 マツダ財団 井上

